

第3学年 社会科学学習指導案

日時 平成15年 9月 3日 (水)

児童 3年3組 男子14人 女子13人 計27人

指導者 宮古市立 山口小学校

教諭 川上孝悦

1 単元名

「見直そう わたしたちの暮らし」

2 単元について

(1) 教材観

第3学年および第4学年の目標は、地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚を持つようにすることとある。また内容は、地域の人々の生産や販売について、①地域には生産や販売に関係する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること、②地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとの関わりを見学したり調査したり調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えることとある。

本校としては、地域の実態に合わせ、商店などの販売に関する仕事と、生産に関わる仕事について取り上げている。学校が市の中では住宅地に位置していることから生活と結びつきの深い販売に関わる仕事を取り上げ、後に港湾に近い地域性を生かした生産活動としてちくわ工場についての学習を取り上げている。

本単元では消費生活や販売について取り上げる。子供たちの学習の中心となる買い物、いわゆる家庭での消費活動は、時代の流れや地域の事情によってデパート、スーパー、コンビニ、通販など多様化の方向にある。本校では教科書同様利用率の高さからスーパーマーケットを教材として扱っている。

本単元では、子どもたちが「消費者としての自分」を意識しながら学習できるように、日常の買い物調べから導入し、消費者の買い物の傾向とスーパーマーケットを中心とした販売の工夫に関わらせながら調べていく。また、消費を通した他地域との結びつきやリサイクルなど環境への取り組みについても学習していく。

第一小単元「買い物調べをしよう」では、実際に家の人と買い物に行き、どの店でどんな買い物をしているかを調べて、地図やグラフにまとめる。この活動を通して自分の家の買い物の傾向をとらえるようにする。

続く第2小単元「店を調べに行こう」では、よく買い物に行く店を見学し、店の販売の工夫と買い物客の様子や工夫を調べる。ここでは、買い物調べから捉えた地域の人々がよく買い物に行く店を取り上げて見学する。そして、店の人と買い物客との関わりを観察や、買い物客へのインタビューや働く人への取材などの活動を位置づけ、店の販売の工夫を消費者との関わりで考えられるようにする。また、見学を通して生まれる新たな課題から、消費生活を通した他地域とのつながりに目を向けさせたり、環境保全やゴミ減量化などへの取り組みについても注目させたりしていく。ここでは、子どもたちが消費者として自分の利便性ばかりを求めるのではなく、社会の一員として資源の浪費や環境破壊の防止に寄与しようとする態度も身につけさせたい。最後に、再び消費者の視点に立ち返り、家の人や買い物の仕方に関心を持ち、消費者が買い物をするとき品質や価格等を考え、工夫しながら買い物をしていること捉えさせたい。

本単元の学習を通して、子どもたちが消費生活を様々な方向から捉え、消費者としての自分たちの買い物の仕方を学ぶことができると考える。また、販売に携わる人たちの願いや工夫を理解させるとともに、地域の人々は、よりよい生活を送るために、様々な品物を工夫しながら買い物をしていることさらに、販売を通して人やものが他地域とつながっていることを気付かせたい。

(2) 児童観

3年生になり、新しい教科の一つとして社会の学習が始まった。子どもたちは、前単元「見つめよう わたしたちの まち」の学習の中で、自分たちの学校を中心に自分たちの住む地域について学習を深めてきた。学校の屋上に上がって、高いところから見るまちの様子から課題を作り、課題を持って調べていくことで、予想が確かめられたり、新たな発見があったり、学習を広げていったりといった体験をしてきている。小単元「まち たんけん」では、いくつかのグループに分かれ、希望する地域を探検する学習をしてきている。大地図に表すことで特徴をつかみやすくなることな

ど体験してきている。見学などの活動や、地図作りなどの作業には大変意欲的である。3年生の社会は自分たちのくらすまちを、自分たちの足で調べて学習していくのだという関心・意欲を社会科のスタートの時点で味わうことができた。しかし、インタビューをしたり説明を聞いたりといったことは経験が浅く、マナーの問題等もあり苦手なところもある。発言の中身についても、自分で同じようなことと判断すると挙手を控えてしまい、付け足したり広げたりということはなかなか習慣化できないでいる。

買い物について、子どもたちはスーパーマーケットの食品売り場を家族と訪れた経験は持っている。しかし、ただついて歩いているだけだったり、自分の欲しい物だけにしか目が向いていなかったりすることが多いと思われる。また、働く人の姿も目にしているが、その仕事の意味を考えたり、思いに触れたりすることはほとんどないはずである。一学期に児童に行った事前調査では、「土日など休みの日は家の人と買い物に行くことが多いですか」という問いに「よく行く」あるいは「ときどき行く」と答えた子は全体の3分の2を越えた。買い物の頻度では週に2～3回くらいという回答も全体の4分の3程度を占めていた。また、ほとんど全ての家庭が買い物には車で出かけている。お遣いに行く子は学級の半分より少ないという実態であった。

(3) 指導観について

指導に当たっては、第一小單元では普段何気なく行っている買い物について課題意識を持って調べ、買い物地図に表してみたり、グラフ化したりといった活動は、子どもたちの目を開かせる活動になると考えられる。この活動をきっかけに「なぜ、その店を選んでいるか」といった問題意識を強く持たせたい。そして、第二小單元では課題意識をしっかりと持った見学学習を組み、課題解決のための生の学習ができるように計画の段階で内容について吟味していきたい。ここでは、自分が一人の買い手（消費者）として、商品の並べ方や表示に目を向け、主体的に「買いやすさ」を発見できるようにしていきたい。また、働く人へのインタビューなどを通して、お客さんのことを考えて働いている店の人々の思いに迫るようにしていきたい。

見学学習を通して新たな課題として、「他の地域との結びつき」や「リサイクル活動（環境）」についても順次、課題を設定し、調べ学習を行いまとめていく学習過程を行っていく。そして、単元のまとめに際しては消費者として、さまざまな視点から判断して利用するような姿勢を育てていきたい。

体験的な学習や調査的な学習を多く取り入れることで、積極的に地域に働きかけ関わり合うことができる子供たちに育てていきたい。また、自分たちの住むまちへの愛郷心を育てることを目指していきたいと考える。

また、総合的な学習の時間のテーマ「カレーパーティーをしよう」との関連を図り導入や発展に役立てていきたい。「カレーパーティーをしよう」では自分たちが育てたジャガイモの売り上げのもとに、食材を購入しカレーパーティーを開く。ジャガイモの販売（販売のための値段決め、宣伝、販売等々）や他の食材の購入など、たくさんの活動の中に、本単元の学習が生かされるものと考えられる。

単元の目標

- (1) 地域にある商店の販売活動に関する仕事や自分たちの消費活動に関心を持ち、商店の販売・集客の工夫や消費者の買い物の工夫、消費生活を通しての他地域とのつながりについて、進んで追求しようとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 地域にある商店の特色や販売の工夫、消費生活を通じた他地域とのつながりと自分たちの生活とのかかわりについて考えることができる。
(社会的思考・判断)
- (3) 見学や調査をしたり、資料を読み取ったりすることを通して、地域にある商店の販売の工夫や消費生活を通じた他地域とのつながりについて調べたり、調べたことを工夫して表現したりすることができる。
(観察・資料活用の技能・表現)
- (4) 地域にある商店では、販売や集客の工夫をしていることを理解するとともに、自分たちの地域は消費生活を通して、他地域とつながりのあることを理解することができる。
(知識・理解)

4 単元指導計画と評価規準 (総時間数 17時間)

次数	時数	【中・小単元名】 学習のねらい	社会的 事象への関 心・意欲・態度	断 社会的な 思考・判 断	技能・ 表現 観察・資料 活用の	社会的 事象につ いての知識・ 理解	評価規準	資料	
第一次 買い物調べをしよう(4時間)	1	【買い物調べをしよう】4時間 ①買い物の経験について話し合い、買い物調べの計画を立てる。	◎		○		◎買い物の仕方に関心を持ち自分たちの家がどこで買い物をしているか調べようとする。 (発言 プリント)	○「買い物調べカード」の使い方を理解し、調べたことを整理できる。	・地域の商店で買い物をしている写真 ・買い物調べカード
	1	②買い物調べの結果をもとに、買い物地図を作り、どこで多く買い物をしているか調べる。			◎		◎どこで買い物したかを調べて、買い物地図にまとめる。 (作品 観察)		・買い物調べカード ・買い物地図 (白地図・カラードットシー)
	1	③買い物地図をもとに、買い物に行った店と人数を表やグラフにまとめ、どの店で多く買い物をしているか調べる。			◎	○	◎みんなの店が買い物に使った店を表にまとめる。 (観察 発言)	○買い物で一番利用されている店がわかる。 (観察)	・表・グラフ (掲示用、個人用) ・学習プリント
	本時1	④買い物調べを振り返りよく行く店のよさや特徴について話し合い、店の販売の様子や買い物の様子について調べる学習問題を設定する。	○	◎			◎自分や家族が買い物に使っている店のよいところ、便利なおところについて考える (プリント 発言 机間巡視)	○最も利用しているスーパーマーケットを、見学計画を立て調べようとする意欲を持つ。	・前時作成したグラフ (ゲストティーチャー)
第二次 店を調べに行こう(12時間)	2	【店を調べに行こう】12時間 ①買い物客がよく集まるスーパーマーケットについて調べる計画を立てる。	◎				◎スーパーマーケットを調べる計画を立てようとする。 (発言 カード 机間巡視)		・調べ学習カード
	4	②計画に従ってスーパーマーケットを見学し、見学したことを発表資料にまとめる。		◎	○		◎買物をする人の様子や、売り手の工夫など調べたことをまとめることができる。 (観察 カード)	○見学で気づいたことや、思ったことを記録するための工夫をする。(カード) ○質問をきめて、お客さんや店の人にインタビューをする。(観察)	・調べ学習カード (ゲストティーチャー)
	1	③発表を聞き合いながら、スーパーマーケットの販売の工夫についてまとめる。		◎			◎スーパーマーケットの販売の工夫を考えることができる。 (発言 ノート)		
	1	④品物の仕入先を調べる計画を立てる。	◎				◎品物がどこからきているかについて関心を持ち調べる計画を立てようとする。		・調べ学習カード
	1	⑤品物や買い物客を通して、地域の暮らしは他地域とつながりのあることをとらえる。			◎		◎品物が他の地域や外国からきていることがわかる。 (ノート 観察 カード)		・調べ学習カード
	1	⑥スーパーマーケットにあるリサイクルボックスなどを調べ、買い物をしながら消費者ができることについて考える。		◎		○	◎買い物をするとき、環境のために自分たちができることについて考える。 (発言 観察 ノート)	○環境を守るための取り組みを知る。 (観察 ノート)	・リサイクルボックス等写真 ・お店の人の話 (ゲストティーチャー)
	1	⑦家の人の買い物の仕方に関心を持ち、買い物の工夫について調べる計画を立てる。	◎				◎家の人の買い物の仕方に関心を持ち、買い物の工夫について調べる計画を立てようとする。 (発言 ノート)		・アンケート
	1	⑧消費者が買い物をするとき品質や価格等を考え、工夫しながら買い物をしていることをとらえる。		◎			◎上手な買い物の仕方について考えることができる。 (発言 ノート)		・アンケート
まとめ	1	【学習の振り返り】1時間 ①学習を振り返り、スーパーマーケットや消費者の工夫を「買い物レポート」にまとめる。	○	◎			◎これからの自分の生活に生かしていきたいこと、生かせようなことを考え、まとめることができる。 (振り返りカード 発表)	○生活に進んで生かそうとする。 (発言 振り返りカード)	・振り返り(評価)カード

5 本時の指導

(1) 目標

思考・判断

買い物調べの結果を振り返り、スーパーマーケットやコンビニなどよく行く店のよさについて考えることができる。

関心・意欲・態度

○最も利用しているスーパーマーケットを、見学計画を立てて調べようとする意欲を持つ。

(2) 評価基準と判断基準

評価の観点	判断基準	A: 十分満足できる	B: おおむね満足できる	C: 努力を要する子への支援
社会的な思考・判断 ○自分や家族が買い物に使っているスーパーマーケットのよいところ、便利などについて考える		○スーパーマーケットの利用が多いわけを他の店と比較しながら考えることができる。	○スーパーマーケットの利用が多いわけ(品物の多さなど)を考えることができる。	○自分の利用した経験を想起させ、品物の種類や数の多さなどに気づかせる。
社会的事象への関心・意欲・態度 ○最も利用しているスーパーマーケットを、見学計画を立て調べようとする意欲を持つ。		○スーパーマーケットの利用が多いわけを見学して調べようとしている。また、見学したい内容や事柄をもっている。	○スーパーマーケットの利用が多いわけを見学を通して調べようとする。	○友達の発言をもとに、簡単な見通しを持たせ、安心感と活動への期待を持たせる。

(3) 展開

段階	学習内容	指導上の留意点・支援(・) 評価(○)	用意する資料
つかむ	<p>1 「買い物調べ」のグラフからみんながよく行く店をとらえ学習問題を設定す ・スーパーマーケットが多いのはなぜか</p> <p>問題設定 スーパーマーケットに買い物に行く人が多いのはどうしてだろう。</p>	<p>・グラフの読み取りの要素について指導する。 ・グラフから読み取れることを確認し、スーパーマーケットをよく利用しているわけを考えることから学習問題を設定する。</p> <p>・スーパーマーケットを中心に考えや話し合いを進めていくことを捉えさせる。</p>	<p>買い物調べ(グラフ)</p> <p>学習プリント</p>
追究する	<p>2 予想を立てる</p> <p>安い 品物が豊富 新鮮</p> <p>3 スーパーマーケットのよいところをまとめる</p> <p>◇スーパーマーケット ・値段が安い ・品揃えが豊富(選ぶのが楽しい) ・新鮮 ・駐車場が広い</p> <p>4 時々行く店のよいところを考える</p> <p>◇コンビニエンスストア 営業時間が長い 入りやすい(短い時間で買い物ができる) ちょっとした買い物に便利</p> <p>◇専門店 そこにしかないもの。 品数。品質。</p> <p>5 ゲストティーチャーのお話を聞きながら自分たちの予想を確かめたり、それぞれの店のよさに気づく。</p>	<p>○スーパーマーケットのよいところ、便利になどころについて考えているか。 ・予想がつかない子(○)には次のような支援を行う。スーパーの写真 机間巡視をして ・品物の多さからいろいろなものを選べることに気付かせる。 想させる。</p> <p>・同じような考えや付け足しを出させながら子供の意見を盛んに出させたい。 ・付け足しやわけをいう発言があったら称揚しほめる。 ・挙手している子だけでなく意図的に指名し話し合いを膨らませる。 ・(品揃えが豊富←選ぶ楽しさ。好みに合う。 ・(安い←一定価との比較、サービスポイント、タイムサービス、特売、等々←広告・宣伝) ・(車←たくさん買える、家族みんなでいける) ・子どもの発表が出にくいときには、ペアを組んで話し合わせる。</p> <p>・ときどき利用する店についても、よく行く店のよさとの比較のなかで、それぞれのよさを確認させたい。 ・比較した発言については、その考えのよさを認める。 ・利用した体験などをもとによさを考えさせ、特に時間帯や入りやすさ注目させたい。</p> <p>・ゲストティーチャーとして招いたクラスのお母さんがたに、自分たちが話し合ったことを認めていただいたり、自分たちが気付かなかった部分についてお話を聞いたりする。 ・多くのお客さんに来てもらうための店の人の工夫もあることも気付かせ次の見学計画の立案に意欲を持たせる</p>	<p>各写真(パネル(中))</p> <p>ゲストティーチャー(児童のお母さん)</p>
まとめる	<p>6 今後の学習の見通しを知る 見学学習に向けて取り組む意欲を持つ</p> <p>スーパーマーケットを見学する計画を立てよう。</p> <p>お客さんが沢山来るための店の工夫など 店の品物を見る様子 買い物をする人の様子</p>	<p>・今日の学習を振り返り、どんなことをお店の人に聞いてみたいか話す。</p> <p>・店の人に話を伺ったりすることから、店の人の工夫や働く人の気持ちにも目を向けさせていきたい。</p> <p>○スーパーマーケットの利用が多いわけを見学を通して調べようとしたか。 ・子どもの考え、発表等を評価し、次時への意欲を高める。</p>	

(4)板書計画

見直そう わたしたちの暮らし

買い物調べ
(グラフ)

スーパーマーケットに買い物に行く人が
多いのはどうしてだろう

やすい

種類が多い

ものがよい・新鮮

いろんなものが一度
に買える。

買い物のしやすさ

車で行きやすい

買い物以外のお楽しみ

スーパーマ
ーケットの写
真

いつも開いてる

気軽さ 入りやすさ

いろいろなものが買え
る

お話をしながら

新鮮 必要なだけ

コンビニ
エンス
ストア写
真

専門店
(魚)

次時の課題

スーパーマーケットを見学する計
画を立てよう